

CAP ジャーナルの紹介

矢治健太郎 (核融合科学研究所)

1. CAP ジャーナル最新号から

今年の3月にCAPジャーナルの第25号が出版された[1]。これには、昨年3月に福岡で開催された「世界天文コミュニケーション会議 in 福岡」(CAP2018)の総括記事が掲載されている。タイトルは

「CAP2018の舞台裏：史上最大の天文コミュニケーション会議の誕生」

(英題：Behind the Scenes of CAP2018 Japan: Producing the Largest Astronomy Communication Conference to Date)

著者はCAP2018の実行委員を務めた、リナ・カナス、縣秀彦、山岡均、鷹野重之の4名。

CAP2018については、すでに「天文教育」誌上で特集も組まれており、その概要について知ることができる[2]。ただ、CAPジャーナルは国際論文誌ということもあり、CAP2018の総括記事であると同時に、海外のコミュニティへのメッセージという意味合いも強いと考えている。実行委員として運営の戦略面や広報・財政の報告に加え、CAPから学んだこと(いわゆる lesson learned)も記述されている。ぜひ、読んでみてほしい。

さて、CAPジャーナルの第25号には、計9編の記事が掲載されている。いくつか紹介すると、

「IAU 会員へのアウトリーチ活動の調査と、CAP2020の日程」(Survey of IAU Members' Outreach Activities and Save the Date for CAP2020)

CAP2020の日程を紹介。2020年9月21日～25日。場所はオーストラリアのシドニー。

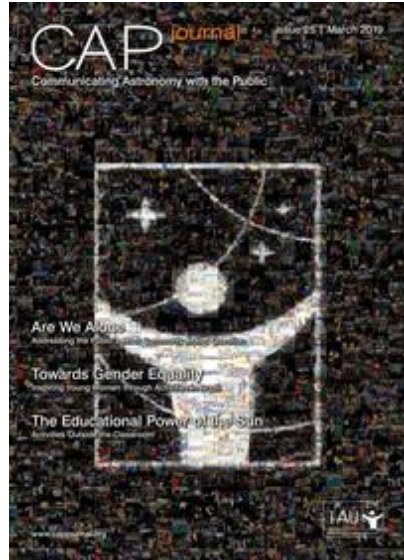


図1 CAPジャーナル25号の表紙

「天文学普及における絵葉書の活用」(The Use of Picture Postcards in Disseminating Astronomy)

「われわれは独りか？ 一般市民からの最もよくある質問にマーチン・リース博士と議論する」(Are we Alone? Discussing the Public's Most Asked Question with Professor Martin Reese)

「ジェンダーの平等に向けて：天文博物館でのガールズ・デー」(Towards Gender Equality: Girls' Day at the Museum of Astronomy and Related Sciences)

ブラジルの天文博物館でのイベント報告
「太陽の教育的影響力」(The Educational and Influential Power of the Sun)

コロンビアでの太陽を用いた天文教育普及の実践レポート

「ひと目でわかる世界のアウトリーチ」(The World At a Glance)

国際天文学連合 100 周年に向けての、各国の天文普及の活動報告。

2. CAP ジャーナルとは？

と、いきなり、CAP ジャーナルの最新号の紹介から始めてみたが、皆さんは CAP ジャーナルというのをどれだけ知っているだろうか。CAP ジャーナルは、国際天文学連合のディビジョン C の、C2 委員会[3]が発行している海外の雑誌である。

わたしが、CAP ジャーナルの存在を知ったのは、2009 年のパリでの国際会議である。CAP ジャーナルは 2007 年 10 月に第 1 号が発刊されて、以来 25 冊が発刊されてきた。内容は、天文コミュニケーション。また、ピア・レビュー誌である。初代編集長はペドロ・ルッソ（現・ライデン天文台）、以来 4 人の編集長が務めて、4 代目がチャン・シーロン（現・NARIT）である。海外での天文コミュニケーションの活動や実践が紹介されている。最初の頃は 1 年に 3 号ほど出ていたが、ここ数年は 1 年に 1 号の発刊になっている。紙媒体でも出版されているようだが、CAP のサイト[4]からダウンロードして読むことができる。海外の雑誌なので、もちろん英語。ただ、海外の天文コミュニケーション事情を知ることができる媒体なので、毎回発行を楽しみにしている。

毎号 7~10 編の記事が掲載されている。わたしの勘定が間違っていなければ、25 号で 224 編の記事が掲載されてきた。割と実践 (Best Practice) 関係の記事が多い。他にも、

- ・お知らせ (Announcement)
- ・インタビュー (Interview)
- ・意見 (Opinion)
- ・リソース/資料 (Resources)

といったものもある。過去には、彗星探査機ロゼッタの特集号 (第 19 号) が組まれたり、CAP ジャーナル 10 周年特集 (第 23 号) と

いうのもあった。

ただ、天文教育に関する記事、例えば学校教育における授業実践などは、CAP ジャーナルの対象となっていない。もちろん、天文教育をメインとした雑誌も存在するが、ここでは詳しい紹介を省く。

残念なことに日本人が著者となって関わった記事は、これまで 5 編しかない。日本人が投稿している話は聞くし、筆者も太陽関係で投稿したいとはかねがね思っているのだが。

3. まとめ

CAP ジャーナルは、海外の天文コミュニケーション事情を知ることができる国際論文誌である。海外の天文コミュニケーション事情に興味のある方は、ぜひ読んでみてほしい。英語で書かれていることは一つの大きなハードルかもしれないが、まずは目次や、タイトル、画像を眺めることから始めて、興味を持った記事をじっくり読んでみてはどうだろう。また、天文翻訳ネットワーク[5]の活躍にも期待している。PDF で公開されているので、Google 翻訳を活用すれば、ある程度の内容は理解できるかもしれない。投稿に関しては、筆者は積極的な提案を持ち合わせていないが、サポート体制は必要かなと思っている。

文 献

- [1] CAP journal Issue25, 2019
- [2] 2018, 「特集 : CAP2018 in Fukuoka JAPAN」天文教育,30:4,2-38
- [3]
<http://www.communicatingastronomy.org>
- [4] <https://www.capjournal.org>
- [5]
<https://sites.google.com/oao.iau.org/translation>